

桜守活動

桜守活動は、地域の方で地域の桜を守るボランティア活動のことです。桜並木を保全していくためには地域の皆さまの参加が大きな力になります。清掃活動や桜の継続的な観察、保全活動などの桜守活動を進め、地域の皆さまと目黒川の桜を将来に伝えていきます。

ソメイヨシノ

ソメイヨシノは江戸時代末期に江戸の染井村の植木職人によってつくられたエドヒガンとオシマザクラの交雑種といわれ、明治時代に広く日本中に広まりました。目黒川の桜のほとんどがソメイヨシノです。



目黒のサクラ基金

サクラ基金は、ふるさと目黒の桜のある風景を後世に伝えるための基金です。桜を1本植え替えるには100万円程度かかります。公園等の桜の保護、植替えなどに活用しています。詳しくは目黒区ホームページをご覧ください。

<http://www.city.meguro.tokyo.jp/>



伐採された桜



新植した桜

目黒のサクラ保全事業の流れ

1

樹木診断

樹木医による診断を行い、個々の桜の状態を把握します。倒木の危険のある桜については先行して伐採を行い、安全確保を図ります。

2

再生実行計画の策定

桜の保護、植替えについて地域の皆様と検討を行い、地域に合った再生実行計画を策定します。

3

保全・更新

再生実行計画に基づき、保護や植替えを進めていきます。

ふるさと目黒の
桜を後世に伝える

目黒川の サクラ再生 実行計画

対象範囲



お問い合わせ先

目黒区都市整備部みどりと公園課公園計画係

〒153-8573 東京都目黒区上目黒2-19-15

TEL.03-5722-9745 FAX.03-3792-2112

目黒川の桜



目黒区内の目黒川沿川には約800本の桜があり、市内でも有数の桜の名所となっています。

目黒川の桜並木は、昭和の初めに行われた目黒川改修工事の際に、地域の人々が両岸一帯に桜を植えたことが始まりです。

南部橋の近くには、昭和11年に旧西郷邸の所有者西郷従道の息子西郷従徳をはじめとする有志の人たちにより建てられた「桜樹記念碑」があります。この記念碑は、もともとは目黒橋付近に建てられましたが、昭和56年から昭和61年にかけて行われた護岸改修に伴い、現在の場所へ移設されました。

この改修の際にはほとんどの桜が伐採されて植え替えられましたが、地域の人々の要望により改修前に植えられていた桜も一部移植されて、植えなおされるなど、目黒川の桜並木が長く地域の人から愛されていることが分かります。今の桜は3代目といわれています。



将来像

樹木診断結果

平成27年度に、目黒川の桜782本について樹木診断を行いました。その結果、全体の約9割は健全か健全に近いと判定されましたが、一部の樹木は被害を受けていることが分かりました。良好な景観を保つ一方で、年月の経過や環境の変化などのため、様々な問題も生じています。



衰弱した若木



桜に発生したキノコ

検討会

桜並木の景観を将来にわたって引き継ぐため、平成29年度に検討会を3回開催して、地域の皆さまと将来像について検討しました。現地見学会では、目黒川沿いを歩いて現状の問題点などを実際に見て確認しました。



現地見学会の様子

地域のシンボルとなっているソメイヨシノによる桜並木景観を将来にわたって引き継ぎます。

現在の桜を健全に育てて、できる限り長く残していきます

根元を保護します

桜の根元が裸地化したところは、根を保護するため、低木や地被植物などを植栽して人が立ち入らないようにします。



施肥や土壌改良を行い、木を元気にします

根の活力不足でやや弱っている木には、根の周りに穴を掘って固形肥料を施して活力を向上させたり、根を張る範囲を増やすために土壌改良を行います。



定期的に剪定をします

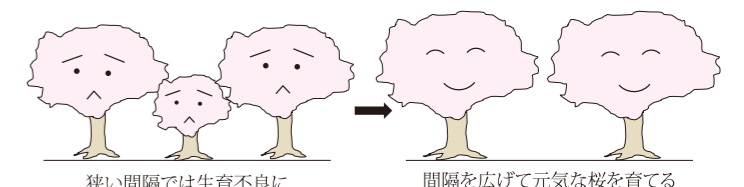
枯枝、衰弱した枝、伸びすぎた枝は剪定して樹形を整えます。目黒川沿いでは地上の空間や地下の根系範囲が限られているため、上に大きく伸びた枝が弱る

ことがあります。環境に合わせて、樹形を整える剪定を行います。

倒木の危険が生じた樹木については伐採し、周辺環境に合わせてソメイヨシノを中心とした植替えを行います

適切な植栽間隔を確保します

現在は約6mの間隔で桜が植栽されていて、枝を伸ばせる空間が狭く、隣同士の枝が接しています。また、今後樹勢の衰えなどにより桜を伐採した場合、同じ場所に補植をしても両側の桜の日陰になり、成長できません。伐採した場合にはすぐに同じ場所に補植せず、植栽間隔が8~10mになるように調整しながら植替えを行います。



狭い間隔では生育不良に

間隔を広げて元気な桜を育てる